

(議長)

はい。次に、小梅議員の発言を許可致します。

「小梅議員」

はい。

(議長)

「小梅議員」。

「小梅議員」

はい。

おはようございます。

私からは本当の暮らしの中の身近なこと、3点ほどお聞かせください。

まずは、三平汁の活用について、でございます。

北海道初の日本遺産認定を心から喜びながら、町民一体の盛り上がり期待しているところでございます。その中であの最も身近な三平汁は、日本遺産の対象項目にもなっていますが、今はもう気軽に味わえない状態です。店も、あの提供してくれる店もあまりないですし、家庭でも昔はよく作っていたのですが、今は家族も少なくなり、あの高齢化が進んでそんなにそんなに作られないような状態になっているようでございます。でも本当に身近なところで、誰でもできる郷土食、庶民の味、この味を復活させて三平汁のもてなしで、町を訪れる観光客をはじめ、あの町内に生活している人方もみんな食べながら町を活気づけられたらなと考えます。

今まである既存の飲食店はもとより、いにしえ街道とか開陽丸等、人の集まるぷらっと江差とか、町会所、それから追分会館のロビー等活用して、民間の活動があれば本当に良いと思うのですが、如何でしょうか。お聞きしたいと思います。

「町 長」

議長。

(議長)

はい、「町 長」。

「町 長」

小梅議員からのご質問、三平汁でおもてなし、に関してのご答弁を申し上げます。

三平汁は私たちの身近な郷土料理の1つとして、観光客が気軽に味わえる環境作りが必要ではとの趣旨のご質問でした。私自身としても、食の面から観光客を受け入れる体制整

備として是非多くの飲食店に取り組んで頂きたいと期待しているところでございます。

先般多くの町民にご参加頂きながら開催したワールドカフェにおいても、郷土食である三平汁を江差観光の食の目玉として検討してはどうかとの質問がございました。参加者である住民も改めて気付きのきっかけになったと感じております。

なお、三平汁といいましても、江差、失礼しました。日本遺産の構成文化財であるニシン三平だけでなく、マダラ、スケソウダラ、ヌカボッケ、シャケ、農産物ではササゲを主としたもの等、季節ごとにあることから、これらの三平汁の提供が可能か飲食店などの取り組みが進むよう取り組んで参ります。具体的には、江差観光コンベンション協会会員の飲食店で毎月24日に取り組んでいて、一定の定着が図られている「ニシンの日」の企画で、1軒でも多くのお店が三平汁を提供出来るよう、協会を通しての依頼、加えて江差追分会館に併設されているレストランは町営でもございますので、ここでのメニュー化の協議を行って参ります。

また、ご質問の中でいくつかの町有施設において、民間団体が三平汁を提供することの可能性についてご質問がございました。この日本遺産を契機に町民の皆さんや団体などからイベント時等だけでも自発的に取り組みたいとの意向が出てきた場合には、施設の利用方法や時間帯、或いは実施期間にもよりますが、施設の管理上の問題、問題点が解決されるのであれば、前向きに検討していきたいと考えておりますので、ご理解願いたいと思います。

(議長)

はい、「小梅議員」。

「小梅議員」

はい。はい、ありがとうございました。

本当に皆さんが望んでいます、それは。私もあの追分会館よく出入りしていますけれども、そこに来るお客さんも言いますね。何か本当、江差独特の何か食べ物は、簡単に食べられるものはないのか。それから江差会館、追分会館の中にコーヒーショップは無いのかとか、何か色々なそういう食に関してのことを聞かれます。だから、そんなに難しく考えなくても、三平汁の場合は作り置きも出来ますし、急ぎのお客さんの中にも、すぐもう対応出来るのですごく便利だと思うのです。材料も山菜とかその季節の野菜たくさんありますし、魚類も何でも塩蔵したもの、塩漬けのもので、年中使用出来ますので、いつでも対応出来ますし、値段も比較的安いですし、満腹感も出ますので、とても便利だと思いますので、ぜひあの前向きに考えて頂きたいと思います。

本当、町の施設使うのは、何ていうのかな、色々な制約もあって大変だと思うのですけれども、でも何かもったいないです。町会所にしても、ぷらっとにしても、あれだけでやっているのは。だからもう少しやっぱり考えてほしいと思います。今後、来年度に向けて

宜しくお願い致します。

(議長)

質問、答弁いいですか。

「小梅議員」

答えられるものがあつたら答えてもいいですが、一応希望です。

(議長)

はい、「追分観光課長」。

「追分観光課長」

小梅議員から三平汁、特色ある食べ物、コーヒー等、追分会館ですね。での飲食ですとか、もう少しその公共施設を前向きに考えて頂けないかなというお話がございました。

先程、レストランのお話しがありましたが、レストランのオーナーとの意見交換の中で、19日には、今月19日、ちょっと相談に行きたいというお話がございましたので、そういう席でしっかりあの我々の意向を伝えながら、前向きに対応していきたいと思っておりますので、ご理解ください。

以上です。

(議長)

はい、いいですか。

「小梅議員」

ありがとうございました。宜しくお願い致します。

(議長)

はい、では次、2番目の質問。

「小梅議員」

はい。それから2番目、追分会館のことです。

いにしえ街道とか追分会館は江差観光の代表です。追分条例も制定されまして、追分流れるロマンのまちと宣伝文句に謳われながら、肝心の追分の音色が流れていない矛盾を感じていました。本家本元の追分会館ですら聞かれないのが本当に不思議でした。騒音問題ともいろいろあるでしょうけれども、せめてこの界限だけでも対策を考えてほしいと思いますが、如何でしょうか。

それからもう1つ。会館の中にある売店です。ショーケースはたくさん並んでいるのですけれど、本当空間が目立ちます。空っぽなのもあります。それから品揃え、追分グッズとかももっとたくさんあったなと思うのですが、小物類も少なく、何か見ると店仕舞いって感じで寂しいのですね。追分会館は本当もっともっと充実して、追分発展のためにはなくてはならない大事な場所ですので、みんながああ気軽に寄れて、楽しめるようなことも必要だと思うのです。

それからほら、皆さん、町職員の皆さんなんかも着用している人気のポロシャツ。これも新しくなりましたって言ってこの間新聞にも出ましたりして、結構あちこちから問い合わせがあったりして人気なのですが、そのシャツを買いに行くと、それは追分会の事務所扱いとかなって、すごく分かりづらいのですね。だからどうせだったらそのショーケースも空いていたりする訳ですから、そこでちゃんと出来るように、買いに行く人は会館の事務、追分会の事務所であろうが、こっちであろうが関係ないのですよね。だからもうちょっと分かりやすく、その追分会と指定管理者の運営区分というのがどうなっているのかお聞きしたいと思います。

「町 長」

議長。

(議長)

はい、「町 長」。

「町 長」

江差追分に関する2点の観点からご質問がございましたので、お答え致します。

まず、いにしえ街道や江差追分会館において、江差追分が流れる環境を作るべきでは、とのご質問がございました。

いにしえ街道においては、江差追分が流れる環境整備につきまして、平成29年度執行方針でも示しており、実現のため、6月に中歌町内会、姥神町内会の役員の皆様に説明を行い、基本的事項をご了承を頂いたところです。現在はマスコミの報道等でご承知かもしれませんが、9月6日から29日までの概ね一月試験放送という形で、いにしえ街道、具体的には江差町会所会館前と皐月蔵前で、通常は尺八の音、また今週行われます江差追分全国大会は、実況を行う予定でございます。

長く時間を要した背景として、単純に音を流す場合は、それぞれの施設にCDプレーヤーを配置する方法がありますが、目指したのは拠点施設を追分会館、江差追分会館として、そこで流した音源を複数の遠隔受信施設で放送するという方法です。

議員ご承知の通り、いにしえ街道は電線地中化区域であり、有線で繋ぐためには、地中にケーブルを通す等の工事が伴い、現実的ではなく、インターネット回線による配信に向

けて町内業者や、インターネット環境に詳しい方からサポート頂きながら、今回の試験放送となりました。この方法を採用することで、離れた場所の複数のスピーカーで音を出す、消すことを一元管理することが可能となる上、イベント時にはその模様も一斉に放送出来る可能性があります。今回の試験結果を踏まえながら、次年度以降の本格放送を追求して参ります。

続きまして、ご質問の2点目の、江差追分会館施設の運営区分に関するご質問でございます。指定管理者が担う売店のショーケースに空間が多く、品揃えに工夫がない、人気のポロシャツは購入希望者が売店では買えず、江差追分会事務局へ案内されるなど、運営区分での不都合についてどうなっているかというものです、でした。ご質問の趣旨をしっかりと受け止めて、管理者である町、指定管理者、江差追分会での連携を強化しながら、善処して参りたいと考えていますので、ご理解願えればと思います。

(議長)

はい、「小梅議員」。

「小梅議員」

はい。

分かりました。ありがとうございました。

この追分流れる何とか、これを、質問状を出してからすぐ何日かしてこういう風に新聞に出て、どきっと、これ見てどきっとしました。えっ、と思ってどきっとしました。でも大変うれしいことでした。どうぞこれからも宜しくお願い致します。

それから。

(議長)

3番目の質問ですか。

「小梅議員」

はい。3番目に入ります。

かもめ島まつり千人パレードについて、でございます。

(議長)

2番目さ。2番目だ。

「小梅議員」

2番目終わりました。

(議長)

3番目か。3番目でいいのか。

「小梅議員」

3番目です。はい。

(議長)

はい、そうだな。

はい、3番目の質問。

「小梅議員」

かもめ島まつりの千人パレードについて、でございます。

昨年の9月の定例会、この場で質問させて頂いた件ですけれども、千人パレードの人数が少なくなってきましたので、千人パレードというには相応しくないのではないかって、呼称を変更すべきではないかっていうことと、参加者、高校生は3年生のみの参加ですが、全校生徒の参加は無理か、それから中学生の参加は望めないのかっていうこと。それからコースの変更、皆何か膝が痛いとかって言って参加出来ないということで、きついので、坂道はきついので、いにしえ街道はどうなのかっていうことをお聞きしましたところ、それに対して島まつりはコンベンション協会の主催であることから、協会の理事会に検討課題として協議してもらえるよう要請したいとのお答えでした。その話し合いはなされたのでしょうか。何か以前と同じような状態だったと見ていました。

それからまた、参加者減少への取り組みも町として協議していく、とのことでしたが、その方法はどうだったのか、お尋ね致します。

「町 長」

議長。

(議長)

「町 長」。

「町 長」

小梅議員の3問目にお答え致します。

昨年9月定例会で小梅議員から、千人パレードの呼称変更、中学生の参加、コース変更についてご質問頂き、事務局を通しながら、主催者である江差観光コンベンション協会へ趣旨をお伝えしております。

結論から申しますと、今年度の開催もこの3点につきましては、変更がございませんで

した。

呼称の千人パレードですが、これまでも残念ながらその人数に参加頂いた経緯がないようですが、千人はあくまでも目標であること、或いは呼称は既に定着したものであり、変更は想定していないということ、またコースに関して上町から下町への変更の可能性については、これまでの経緯もあり、市街地全体の賑わいという観点から、上町からいにしえ街道を通る現在のコースに関して変更する予定にないと、事務局を通して観光コンベンション協会側からご回答を得ています。

中学生の参加に関しては、協会ではなく町として町内の学校へ、7月第1土曜日前後の生徒の状況を確認したところ、時期を同じくして中体連の各種檜山大会開催期間であることから、千人パレードへの参加要請を行える環境にないと判断している現状でございます。

また、毎年参加頂いている江差高校3年生の皆様はパレード、今年のことですけれども、パレード当日が、同校野球部が出場する函館地区大会決勝戦と重なり、全校応援のため参加出来なかったことを参考までにお知らせ致します。

いずれに致しましても、町の賑わいという意味で千人パレードの参加者をどのように増やしていくかということは、主催者である江差観光コンベンション協会のみならず、町としても議員のご提案を踏まえながら、検討して参りたいと考えておりますので、ご理解願えればと思います。

(議長)

いいですか。

「小梅議員」

はい。ありがとうございました。大事な行事ですので、引き続きの検討をどうぞ宜しくお願い致します。

質問を終わらせて頂きます。

ありがとうございました。

(議長)

はい、以上で小梅議員の一般質問を終わります。